



日本共産党

北区議会議員

のの山けん 区政レポート

http://kyoukita.jp/nonoyama/ E-mail nonoyama@kitanet.ne.jp

No.353 2015.7.15

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は 090-2156-3510
お気軽に



自民
公明が

強行採決

戦争法案強行採決の瞬間 15日、衆院安保特別委



憲法ふみにじる歴史的暴挙

安倍政権は15日の正午すぎ、衆院安保法制特別委員会で戦争法案の採決を強行し、自民・公明の賛成で可決しました。委員会では質疑に立った日本共産党の赤嶺政賢議員が「議論は尽くされておらず、要求した資料

も提出されていない。17日にあらためて委員会を開き、審議を継続すべきだ」と動議を提案。しかし浜田靖一委員長がこれを採決にかけ、自民・公明によって否決されると、野党議員がいつせいに「強行採決反対」などと

書かれたプラカードを掲げて委員長席につめ寄りました。猛抗議の中で、まともな審議が続けられない状況になりながら、委員長が採決を強行しました。国会の外では午前9

時前から続々と人が集まり、強行採決に反対する抗議行動が繰り広げられました。これまでの審議を通じて戦争法案が幾重にも憲法をじゅうりんし、日本を再び「海外で戦争する国」に導くものであることがはっきりしました。歴史的な暴挙を国民は断じて許しません。法案の廃案を強く求めるものです。(のの山けん)



国会前で続く抗議の座り込み



政権倒れるほどの運動を

「輝け憲法・北九条の会」実行委が学習講演会

10日、北とびあで開かれた、輝け憲法・北九条の会実行委員会主催の学習講演会『戦争法案』と安倍政権(写真)に参加。講師の五十嵐仁元法政大教授は「(戦争法案を)強行すれば政権が倒れると思わせるくらい運動を広げることが廃案へのカギ」と喝破しました。何としても廃案に。(のの山けん)

ハルモニたちの"記憶"を 無駄にさせない努力こそ

ドキュメンタリー映画「"記憶"と生きる」(土井敏邦監督)を観て

渋谷で公開中のドキュメンタリー映画、「"記憶"と生きる」を観た。「ナムム（分かち合い）の家」で暮らす元日本軍「慰安婦」たちの日常と証言を記録した貴重な映像だ。

日本軍「慰安婦」問題が大きな社会問題となったのは、1991年に金学順（キム・ハクスン）さんが初めて自分が「慰安婦」だった」と名乗り出たことによつてである。93年には日本政府が「河野談話」で軍の関与を認め、お詫びと反省を表明したもの、国による賠償は実現しておらず、いまだ根本的な解決は図られていない。

この作品が描くのは、元「慰安婦」たちの生々しい証言に基づく歴史の真実と、彼女た



ちの生き様である。筆舌に尽くしがたい体験をカメラの前で語るとに、どれだけの勇気がいったらだろうか。「私たちにだって自尊心がある」と語る金順徳（キム・スンドク）ハルモニ。病床に伏しながらも「この姿を日本の責任者に見せてやりたい。闘いはじめたのだから、最後まで闘う」と訴える姜徳景（カン・ドツキョン）ハルモニ。流れる映像にくぎ付けとなり、1部と2部あわ

せて3時間半という長尺を全く感じさせない。この映画に登場するハルモニたちは、すでにこの世を去っている。「慰安婦」問題の解決どころか、侵略戦争と植民地支配への反省を投げ捨て、「戦争できる国」へと突き進む今の日本を、彼女たちはどんな思いで見ただろうか。この「記憶」を無駄にさせない努力こそ、私たちに課せられた責務だと痛感させられる。（の山けん）

日本共産党志茂・赤羽後援会 秋の日帰りバス旅行

世界
遺産

富岡製糸場

群馬の旅

9月27日(日)

午前8時に赤羽を出発

参加費 7,800円

世界文化遺産に登録された
日本近代化の象徴、富岡製糸場
歴史に学び、郷土の味を楽しむ
群馬の旅をお楽しみください

お申し込みは
のの山まで

☎090-2156-3510